

# 緑化通信

2016  
1月25日  
(年7回25日発行)  
第449号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階  
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577  
URL: http://www.ueki.or.jp/  
E-mail: honbu@ueki.or.jp



購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

## 平成28年度 第1回理事会を開催

本会理事会は、12月16日(水)13時から協会・会議室において理事会を開催した。出席者は理事13名と監事3名及び事務局。議事の経過及び議決の結果は次の通り。

### ○平成27年度事業報告

・報告書内容の文言について加筆修正した。

### ○平成27年度決算報告

・決算報告を受けて、執行部から収入増加対策もさることながら、委員会構成について構成人員数の再検討とともに、具体的には委員会で相互に関連する事業を実施する委員会が有り、統合を検討して委員会の合同開催等を視野に実施すべきとの意見に接した。

### ○役員の変更

・資料により報告し、了承された。

### ○平成28年度事業計画

・協会の厳しい財政状況を踏まえ事業計画前文に協会の置かれた厳しい状況を記載すべきとの意見が有り、対応する事とした。

た。内容の加筆修正が行われた。

### ○総会関係

・参加者出欠状況、来賓出欠状況等を報告し、監査報告は荒井監事に要請する事とした。

・総会会場に、日章旗と協会旗を掲揚し、協会旗は一般社団法人日本植木協会に変更する事とした。

### ○ブロック役割分担報告

・ブロック役割分担報告をする事とともに、意見交換委員会を三役・正副議長会議に同席願う事とした。

### ○理事会等日程

・当初予定されたビジョン検討委員会を6月24日に変更し了承された。

### ○トルコアンタリヤ国際園芸博

・国際情勢を鑑みて、他の緑化関係団体と同様に本会は協賛として対応する事とした。開催は平成28年4月23日から10月30日まで、ジャパンデー

は9月16日。

### ○古賀顧問名誉市民

・福岡県みやま市から名誉市民に推薦された報告があった。

### ○みどり香るまちづくり企画コンテストの植木協会賞

・環境省主催の表記賞に京都市の「京の駅前庭園・香りに満ちた駅前広場」が入賞し、京都駅八条口の改修事に伴う事業が受賞したことを報告。

・協会キヤッチコピーは、「育てよう 豊かなみどり やさしい心」を継続採用する事とした。

### ○公益目的支出実施報告書

・26年度報告として内閣府宛て提出書類を添付し報告した。



## 平成27年度

## 本部監査を実施

本協会は、12月16日(水)10時30分から協会会議室で平成27年度監査を実施した。

### ○監査にあたって、会員の

動向、会費納入状況、本年度事業実施状況及び予算執行状況、入会保証金勘定の

内訳、固定資産及び繰り越しの流動資産・流動負債の内訳、金融機関内訳などを説明した。

### ○この後、預金通帳・残高

証明、伝票等関係帳票を提示・照合・監査の結果、諸帳簿、証憑書類、関係書類

は適正に処理され、経費の使用についても適正であることが認められた。

### ○監事のコメントとして、

決算報告の現状を踏まえ、収入増の施策もあつて、とながら、支出項目の見直しを早急に行う必要があることを強調された。

## 新連載

# 人間の健康を守る「果樹の力」



## ウンシュウ(温州)ミカン

甲南大学理工学部教授 田中 修 氏

私たちが健康にすこせるのは、多くの野菜や、おいしい果実を食らせる果樹のおかげです。この連載では、「人間の健康を守る「果樹の力」と題して、果実がどのように健康に貢献しているかを含めて果樹を紹介します。第1回の今回は、ウンシュウ(温州)ミカンについてです。

### 日本生まれの果樹

「ミカン」という語は、温州ミカンを含めて、ナツミカンやオレンジなど、ミカン科ミカン属に属する柑橘類の総称です。でも、ふつうに「ミカン」とよばれるのは、「温州ミカン」のことです。このミカンの祖先は中国からもたらされ、そのときには、タネがありました。ところが、鹿児島県(当時の薩摩藩)で栽培されていた江戸時代の前期に、「タネなし」になりました。このミカンには、「花粉がタネをつくる能力をなくす」と同時に、「タネができなくても、実が肥大する」という性質があるのです。



タネなしになったミカンには、中国のミカンの集散地として名高い「温州」にちなんで、「温州ミカン」という名前がつけられました。そのため、いかにも「中国生まれ」のような印象を受けます。しかし、この果物は、正真正銘の日本生まれです。

今年度の緑化通信では、NHK ラジオ番組「夏休み子ども科学電話相談」などでおなじみの田中修先生に紙面を飾って頂きます。田中先生にご紹介いただき、果樹の力を日々の暮らしに取り入れ、今年も健やかに過ごして下さい。

温州ミカンが生まれた当時は、タネ(子ども)がなければ「御家断絶」の時代でした。そのため、「タネなし」は忌み嫌われました。皮が剥きやすくタネがないという食べやすさの魅力が理解され、その味わいが評価され、人気ができるのは明治時代になってからです。

近年、外国でも人気が高まっており、「MIKAN(ミカン)」は、国際共通語になりつつあります。カナダやアメリカでは、皮が剥きやすいので、「テレビを見ながらでも食べられる」という意味で「TVフルーツ」とか「TVオレンジ」ともよばれます。

この果物の品種は、多種多様です。といっても、味や見かけで品種名がわかるほどに、品種ごとの性質に特徴はありません。このミカンの味わいを長く楽しむために、成熟する時期が異なるような品種がそろえられているのです。9~10月に極早生、10~12月に早生の品種、12~1月に中生、1~3月に晩生の品種が出まわります。

### 健康に貢献する「β-クリプトキサンチン」

この果汁の中には、ビタミンCとともに、β-クリプトキサンチンという物質が含まれています。近年、この物質は、肝臓の機能を守る効果をもつことが注目されています。



ミカンの花

2005年に農林水産省の研究機関「農研機構」から、「ミカンをよく食べる人では、肝機能障害のリスクが低い」という研究結果が発表されました。アルコール類を多く飲む人は、血液検査のとき、気になる検査項目の一つに、「γ-GTP」があります。これは、肝臓機能の障害を示す指標になるもので、約55(単位は、IU/l)以下の数字が正常とされます。アルコール類の飲みすぎが続くと、この数値が上昇します。

研究の発表では、「お酒をまったく飲まない約30という数値が、毎日、1本の大瓶のビールを飲んでいると、50~60の値にあがる」と報告されています。ところが、「毎日、1本の大瓶のビールを飲んでも、1週間に2~3個の温州ミカンを食べると、この値が40~50にとどまり、1日に2~3個の温州ミカンを食べると、この値が約30のままに保たれる」というのです。これが、β-クリプトキサンチンの効果です。

### 著者プロフィール

#### 田中 修(たなか おさむ)

甲南大学理工学部教授。農学博士。

1947年京都府生まれ。

京都大学農学部・同大学院博士課程修了。

米国スミソニアン研究所博士研究員などを経て、93年より現職。

NHK ラジオ番組「夏休み子ども科学電話相談」の植物分野の回答者も務める。

「植物はすごい 七不思議篇」(2015 中公新書)

「植物は人類最強の相棒である」(2014 PHP新書)

「植物のあっぱれな生き方」(2013 幻冬舎新書)など著書多数。



## お知らせ

### 庭園樹部会 勉強会及びバス視察のご案内

庭園樹部会・伝統技術育成委員会では、緑化木・果樹として優れた梅の手入れ管理育成圃場のバス視察を実施します。多くの会員のご参加をお願いいたします。

開催日時 平成28年2月23日(火)13時30分~24日(水)15時00分  
集合場所 (有)小田原植木 〒250-0055 神奈川県小田原市久野935  
☎0465-34-5845

視察先 (有)小田原植木、小田原市フラワーガーデン梅園、曾我梅園、他  
参加募集人員 25名(定員に達し次第締切、開催最少人員7名)  
宿泊先 箱根の森 おかだ  
参加費 1名様 28,000円(1泊3食付、4~6名相部屋、バス代含む)  
1名様 31,000円(1室2名使用)  
(自宅から会場までの往復交通費は各自負担です)

募集締切 平成28年2月1日(月)  
申込方法 申込書を協会事務局(03-3586-7577)へFAXお願いします。  
申込書は後日各社へFAXします。



# 歓迎

## (一社)日本植木協会 平成二十八年度 通常総会

### 歓迎の挨拶

九州ブロック長

二村 沢 行

(大分植木・大分県)

今回、九州に於いて全国総会を開催するに当たり、全国各地より足をお運び頂き、まことにありがとうございます。

皆様ご承知の通り、九州では常緑樹はもちろん落葉樹などの生産を手がけてい

ますが、高齢化やニーズの変化に付いて行けず、休業して行く人が多く、生産量が減少傾向です。そのような状況下でも全国の需要に

対応されるよう、九州の協会員、青年部会員、そして一般生産者を含め、数年前か

ら生産物の展示会など様々な事業を実施しています。九州の山歩きをして樹木の発掘が出来ないかということ

今からは特に我々の協会としては緑育事業に注力すべきと思っています。年々事業数は増加しています

また、行政にしても今は街路樹や公園樹も管理費が掛かり、住民の苦情が多いので処分している所が多く見られます。これは、前述の親の意見と一緒にではない

新年あけましておめでとごうございます。本年も会員皆様にとって良い年となりますようご祈念申し上げます。

平成27年度、通常総会が九州ブロックで開催されました。これは皆さんどう思

丸といった大生産地に隣接しており、元来、植木の消費地です。県内生産は、山林種苗、コンテナ樹木を中心に生産

佐賀県と言えは、いち早く、地域性樹木生産に取り組んだ事で知られています

### 福岡県支部の現状

福岡県支部長

山田 満 治

(南山田園芸場)

新年明けましておめでとごうございます。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

平成28年度通常総会が博多の地で開催されますこと

と、九州ブロックの一員であります福岡県支部より皆様に歓迎の意を表します。

福岡県は日本でも有数の植木の産地です。耳納連山のふもとに位置する田主丸、久留米地区は歴史も古

類、また新樹種やコンテナ類も多く生産しています。このように多種多様な植物が1時間以内で集荷出

の前に役員会を開催しています。九州ブロックの研修会も

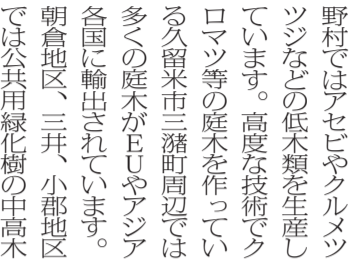
九州ブロックの研修会も多々、他団体との交流や九州緑化協議会への参加、また毎年ではありませんが、

支部の概要ですが、福岡県支部の会員数は49名、年5回の例会と1月に総会を開催していま

福岡県支部の中も久留米地区、田主丸地区、うきは地区、朝倉地区、小郡三井地区と5つの地区に分

け各地区に役員をもうけ定例会

黒松の輸出



黒松の輸出

黒松の輸出

黒松の輸出

黒松の輸出

黒松の輸出

黒松の輸出

黒松の輸出

黒松の輸出

黒松の輸出

### 佐賀県支部の現状

佐賀県支部長

山口 英 樹

(富士緑化園(有))

が危機感を持って良いのではないのでしょうか。

私は、この業界は絶対無くなりほしくない業界だと思

います。もっと自信を持って、今回の講師の太谷さん

のお話の様に笑顔を持って仕事を頑張り、また九州に

来て貰い、皆が集まり、酒などを酌み交わしながら、大いに夢を語りましょう。

ナ生産者2名、山林種苗生産者8名他に、造園業者が生産しております。公共需要は、吉野ヶ里歴史公園の

丸といった大生産地に隣接しており、元来、植木の消費地です。県内生産は、山林種苗、コンテナ樹木を中心に生産

しては、128種あった樹種を必要の多い60種に絞り込み、「さかの樹」認定制度を確立しています。佐賀県の委託事業として、指定母

樹から採種し、生産履歴、在庫、出荷数を一元化、パソコン管理を行い、証明書を発行しています。公共工

事に使用する樹木は、「さかの樹」が指定されます。事業としては、素晴らしいものですが、少ない生産者では、大苗までの対応は難しく、種子配布による

他県への生産委託を考えていく時期に来ている様です。

また、昨年は、佐賀工業出身の五郎丸 歩君がチームとなりました。今年も、熱気球の世界大会や、有田焼創業400年祭等イベントも行われますので是非、佐賀県にお越しください。お待ちしております。

最後にになりましたが、会員皆様のご多幸をお祈りして報告とさせていただきます。



今春移植される小川内の杉(高さ40m、総重量650t) 現在工事中

3年前に、県内の緑化樹を取りまとめた財佐賀県緑化流通センターが閉鎖され、現在、佐賀県造園組合、佐賀県山林種苗緑化協同組合が中心となり、県内中心の流通を行っています。県内の生産者は、コンテナ

今までも埋もれていた樹木や規格外の樹木をもっと外に向けて情報発信していく事が植木協会最大の責務ではないだろうか考える昨今です。

結びに(一社)日本植木協会の今後の発展と会員の皆様の更なる活躍、ご多幸を願いまして福岡県支部の報告と致します。

また、昨年は、佐賀工業出身の五郎丸 歩君がチームとなりました。今年も、熱気球の世界大会や、有田焼創業400年祭等イベントも行われますので是非、佐賀県にお越しください。お待ちしております。

最後にになりましたが、会員皆様のご多幸をお祈りして報告とさせていただきます。

シマトネリコ 30,000 株  
タマリユウ 60,000 マット  
直営農場で生産中

3.11 震災復興に向けて  
シャリンバイ(15vp)  
30,000 ポット

タマリユウ・シマトネリコ生産販売  
タマリユウジャパン  
タマリユウ定期便で  
いつでも・どこへでもお届けします。

●ご注文はホームページ、  
電話・FAX・メールでも承ります。

〒893-0013  
鹿児島県鹿屋市札元2丁目 3727-2  
TEL: 0994-44-6993  
FAX: 0994-44-6996  
URL: http://www.tamaryu.jp/  
E-mail: net-shop@tamaryu.jp



# 熊本県支部の現状

熊本県支部長

大森 信哉

(有)大森樹芸園

新年明けましておめでとうございます。平成28年度通常総会が九州・福岡で開催されます事を同ブロック熊本県支部として心より歓迎申し上げます。熊本



阿蘇中岳噴火

県支部は現在21名で、生産区域としては、標高の高い阿蘇地区では、ケヤキ・サクラ類など落葉高木、県平坦地では、カシを中心とした常緑高木・ポット樹木、その中間の菊池地区では常緑・落葉高木から低木までの生産が行われております。その阿蘇地区では、昨年9月の阿蘇中岳の噴火で大量の火山灰が畑地に降り続けました。土壌の酸性化を改良する為の石灰散布や、枝に付着した灰の除去作業



樹木に降り積もった火山灰

も大変な努力となっており、年11月の九州ブロックの総会の講演会には、この9団体の長であられます(一財)公園財団理事長(元東京農業大学副学長)の豊茂壽太郎先生をお招きし、たいへん貴重なお話を頂きました。最後に阿蘇の噴火にもめげず頑張っております協会員および熊本県支部ともども宜しくお願ひ致しまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

# 大分県支部会員紹介

大分県支部長

清 瀧 毅

(有)キヨタキナーセリー

新春にあたり会員の皆様及び関係各位の方々に於かれましてはお健やかに夢輝く新年をお迎えのことと存じます。

NPOなどのボランティア活動にも積極的に取り組み、緑の効用普及に取り組んでいきます。

さて大分県支部に於きましては会員5名と少ない中で活動しております。早々ではありますその会員の紹介をさせていただきます。

先ず、大分植木(株)(二村沢行氏)は、大分市内にあり造園工事の材料一式を取り扱い、大分を代表する卸業を営んでおります。また

大分県支部として特に決まった活動はありませんが、協会員以外の豊縁会員と伴に年2回程度の意見交換会など行っております。

大分県は一村一品の発祥の地で、別府・湯布院温泉に長湯温泉などお湯の種類も多く心の休まるところであります。海山の幸も多く、お近くに越越しの際は、それぞれの会員が案内すると思っておりますので、ぜひごゆっくりとお越しください。植木と苗木と露地の山行用苗木生産に取り組んでおります。以上5名の会員は大分県内に点在しており其々に特徴ある経営を頑張っております。ぜひご愛顧いただけますようお願いいたします。

# 宮崎県の緑化の現状

宮崎県支部長

甲斐 郁

(日本ブランドカバー(株))

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

宮崎県では、今後、皆様の指導、ご支援をいただきながら、地域経済の活性化をほかり、安全で快適な生活環境かつ豊かな自然環境を守り、さらには地域温暖化防止にも貢献していきたいと考えております。

さらに、東日本大震災復興事業の継続、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催など緑化業界にとっては需要拡大に向けた大きなチャンスになると期待しておりますが、残念ながらなかなか宮崎までは回ってこないのが現状です。

育てることで従来のポット苗より小型軽量化され植栽の運搬、植付、手間を軽減し、容器側面の縦筋や底部の開放により根のルーピングが防止できる等、苗木生産量は平成17年度から平成26年度には約2倍の増産を達成しております。

以上、簡単ではございますが、本年が皆様にとりまして良き年となりますようお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

# 鹿児島県支部の現状

鹿児島県支部長

湯之上 睦

(有)湯之上園芸

日本植木協会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

鹿児島県は、皆さまご存知の通り日本有数の常緑高木の産地として、消費地より離れたはありますが、皆でこのきびしい時期を頑張っております。

鹿児島県は、皆さまご存知の通り日本有数の常緑高木の産地として、消費地より離れたはありますが、皆でこのきびしい時期を頑張っております。

鹿児島県は、皆さまご存知の通り日本有数の常緑高木の産地として、消費地より離れたはありますが、皆でこのきびしい時期を頑張っております。

鹿児島県は、皆さまご存知の通り日本有数の常緑高木の産地として、消費地より離れたはありますが、皆でこのきびしい時期を頑張っております。

鹿児島県は、皆さまご存知の通り日本有数の常緑高木の産地として、消費地より離れたはありますが、皆でこのきびしい時期を頑張っております。



シマトネリコ

鹿児島県は、皆さまご存知の通り日本有数の常緑高木の産地として、消費地より離れたはありますが、皆でこのきびしい時期を頑張っております。

**コンテナ農場(100万本生産)**

コンテナ農場

**(株)瀬戸内園芸センター**

愛媛県今治市旦甲 248-1 TEL 0898-48-0010(代) FAX 0898-48-8187  
http://www.setoen.com/ E-mail: setouchi@setoen.com

主な生産物  
クロマツ コニファー類 ヤシ類  
カシ類 クスノキ タブノキ  
モチノキ ウバメガシ オリーブ  
カクレミノ クロガネモチ  
サンゴジュ シマトネリコ  
マテバシイ ヤブツバキ ヤマモモ  
レッドロビン オウゴンマサキ  
カンツバキ(赤花と白花) サザンカ  
シャリンバイ ツツジ類 トベラ  
ハマヒサカキ ヒサカキ ミカン類  
サクラ類 イロハモミジ ハナモモなど

オリーブ

カンツバキ赤花と白花

緑は地球を救う



# 東日本大震災における復興祈念公園及び 国営追悼・祈念施設(仮称)の整備に向けて

国土交通省 東北地方整備局  
東北国営公園事務所長 脇坂 隆一 氏

東日本大震災から4年半が経過した。岩手、宮城、福島3県の被災地では、震災当初の遺体捜索、避難所の開設やがれきの処理からはじまり、仮設住宅の建設、防潮堤の高さの決定、復興計画の策定、防災集団移転や土地区画整理事業などの工事など段階的に進み、復興が着実に進展している。一方でこの東日本大震災は、死者、行方不明者計で2万人もの方々が犠牲になり、関東大震災以降では我が国最大の被害をもたらした自然災害であったことから、この膨大な犠牲者の追悼と鎮魂、また甚大な被害を後世に伝承していくことは被災当初からの大きな課題であった。



陸前高田市高田松原地区  
奇跡の一本松

このような状況の中、奇跡の一本松で有名になった岩手県陸前高田市の高田松原地区、また宮城県石巻市の日和山の麓の住宅地で、400名の方々が犠牲になった南浜地区に復興祈念公園を整備すべく、復興庁からの委任を受け、東北地方整備局がそれぞれの地区の復興祈念公園の基本構想、基本計画を策定することとなり、平成25年度から有識者委員会を立ち上げ検討を進めてきた。

平成26年10月には、「東日本大震災からの復興の象徴となる国営追悼・祈念施設(仮称)の設置について」の閣議決定がなされ、東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂や、震災の記憶と教訓の後世への伝承とともに、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信を目的として、陸前高田市高田松原地区、石巻市南浜地区に国営追悼・祈念施設(仮称)が整備されることとなった。国営追悼・祈念施設(仮称)は、地方公共団体が整備する復興祈念公園(仮称)の中に、国が中核的施設として設置する丘や広場等とされている。

平成27年4月には、閣議決定を受ける形で国営追悼・祈念施設(仮称)が事業化され、国営みちのく杜の湖畔公園事務所を東北国営公園事務所に再編し、国営追悼・祈念施設(仮称)の設計、整備を担うこととなった。あわせて、岩手県、宮城県それぞれの公園事業についても予算措置がなされ、国、県、市の連携・協力した震災復興祈念公園に向けた体制が整ってきた。陸前高田市高田松原地区は防潮堤や道の駅と一体的な公園として、また石巻市南浜地区はかつての自然や街であった歴史を活かした、復興の象徴としての杜づくりを目指す公園として、震災10周年である平成32年度末を目途に整備されることとされており、東日本大震災の多大な犠牲者を追悼するとともに、この教訓や復興の有り様を後世に伝えていく場としてふさわしい空間として、世界に発信していきたいと考えている。



石巻市南浜地区 がんばろう石巻看板

## 香り…雑感。 第2回 ～柑橘類～

足 澤 匡 (小岩井農牧(株)・岩手県)

「柑橘類」の枝や葉には独特の「香り」がありますが、果実には爽やかな酸味と甘みが、そして、花が咲く時期には周辺が甘い香りに満たされます。皆さんがご存知のように「柑橘類」には、沢山の種類があり、「種類によってそれぞれ微妙に香りが違うんだ」と、「柑橘類」を扱う同業者が言っていました。北国生まれの私には皆目わかりません。



ウンシュウミカン …TVを見ながら、こたつで…

北国生まれだから、「柑橘類」が嫌いか、というそうではありません。それどころか、寒い日は、こたつに入りTVを見ながら食べるミカンは幼いころから好きで、手の先が黄色くなるまでよく食べました。祖母にも、「ミカン食べれば、風邪ひかねよ。」と言われた事を思い出します。お正月の飾りや鏡餅の上にもミカンが鎮座していましたが、正式には「ダイダイ(橙) : Citrus aurantium」、果実が2~3年枝に残

るために、縁起を担いで「ダイダイ(代々)」を使っていたそうです。ちなみに、ミカンは「ウンシュウミカン(温州蜜柑) : Citrus unshiu」の代名詞になっていますが、広義では、「柑橘類」を指すこともある都合のいい呼び名ですね。

また、「柑橘類」といえば、アゲハ類の幼虫の食草として知られています。私の実家には、「カラタチ : Poncirus trifoliata」の生垣があり、夏の間、ナミアゲハの乱舞が見られ、幼虫も沢山いました。ある日、部屋の中で蛹になり羽化したこともあり、「カラタチ」は強健で寒さにも強く、ミカン属ではないのですが、なぜか「柑橘類」の台木として使われていますね。

また、自他共に認める(笑)紅茶好きの私が最近知ったのですが、着香茶で有名なアールグレイは、「ベルガモット : Citrus x bergamia」(ダイダイとマンダリンオレンジの交配種)の精油や香料で着香していたのです。紅茶の中でも特に好きなアールグレイですが、夏の暑い日にはアイスティーで、冬の寒い日にはホットミルクティーでベルガモットの香りと共に飲みたいですね。風邪予防のためにも、今夜いかがですか?



ベルガモットの香り …アールグレイのホットミルクティー

## 各地で開催された総会・研修会

### 北海道・東北ブロック

#### 臨時総会・研修会を開催

—8月26日 宮城・仙台市にて—

#### 講演「国営追悼・祈念施設と

#### 東北国営公園事務所について」

平成27年8月26日16時より17時15分までホテルJALシティー仙台に於いて、北海道・東北ブロック臨時総会記念講演が国土交通省東北地方整備局 東北国営公園事務所長 脇坂隆一氏を講師にお迎えし開催された。参加者は本部より倉副会長、北海道・東北ブロック会員21名、関係者4名、事務局の27名が参加した。講演は「東北国営公園事務所と国営追悼・祈念施設」の追悼と鎮魂、②震災の記

憶と教訓の後世への伝承、③国内外に向けた復興に対する強い意志の発信が報告され、国の強い取組姿勢と意思を感じた。はじめに3つの復興祈念公園のうち、岩手県陸前高田市の計画について報告され、有名になった奇跡の一本松を祈念のシンボルとして岩手県が国に国営公園化の要請書を提出し、国が被災地3県の祈念施設を計画する元となった事、県の公園に国の施設を造る難しさ、国・県・市・NPO・地元住民等の取りまとめ等、一つ一つの目的に合わせ解決している状況の報告があった。



高田松原の基本理念は「奇跡の一本松が残ったこの場所、犠牲者への追悼と鎮魂の思いとともに、震災の教訓とそこから復興の姿を、高田松原の再生と重ね合わせ未来に伝えていく」を紹介し、また公園の利用目的が報告された。今回の公園計画では古川沼の自然再生、防潮堤背面盛土への植栽、強風に対応した植栽、各区域に求められた機能と植栽等が報告された。

公園植栽計画は、クロマツの海岸林、クロマツ常緑低木林植栽、湿性林・湿性草地、芝生地、クロマツ疎林等の植栽計画が講演され、植木の安定供給が危惧されるため、日本植木協会からの協力を希望される言葉があった。

最後に脇坂所長へ参加者から大きな拍手が起り、北海道・東北ブロックの元副会長が答える有意義な講演会となった。

次に宮城県石巻市南浜地区復興祈念公園について講演し、数多くのフォーラム開催や学識者懇談会をかさねた報告があった。公園計画は約40haの地方公共団体所有の土地に国が丘や施設を約10ha程度整備する計画である。

平成27年より実施計画に入り平成32年には開園し、復興のシンボルとしてオリピック・パラリンピック参加者や世界の人々が見学できる施設となる予定である。

予定の時間も過ぎたため質疑応答の時間が無くなり、田中ブロック長の謝辞の後閉会したが、会場を移して意見交換会を開催し、多くの会員が質問し脇坂所長が答える有意義な講演会となった。

参加者はより良い植物を安定的に供給する体制を整える事を確認しながら講演を聞き入っていた。最後に福島県の復興祈念公園は原発被害の影響が激しい双葉町と浪江町であり、計画はこれからとの報告であった。

あつた。参加者はより良い植物を安定的に供給する体制を整える事を確認しながら講演を聞き入っていた。



# 関東・甲信越ブロック

## 通常総会を開催

10月28日 茨城・つくば市にて

関東・甲信越ブロック(ブロック長/相澤裕氏)は、茨城県つくば市「ホテルグランド東雲」において10月28日午後1時30分より出席者84名、委任状出席73名のもとブロック通常総会を開催し、本部より植島副会長と専務理事が出席した。

総会は、山田副ブロック長(新潟県)が開会宣言をしたのち、地元(御千代田緑地)佐久定規氏の司会のもと、

海老澤雄一氏を指名して議事を進行した。議案は①平成25年度事業報告をブロック事務局が報告し、審議の結果賛成多数で承認した。続いて②平成25年度決算報告・監査報告を行い、支出項目の支出金額の訂正を説明し、雑費合計金額の訂正をして、審議の結果賛成多数で承認した。続いて③平成27年度事業計画(案)について、文言の一部訂正をして承認された。④平成27年度事業予算(案)について、審議の結果賛成多数で承認した。

⑤役員選任について、議案通り承認され、相澤ブロック長以下提案通り承認された。この後、専務理事から協会本部報告をして、次期研修会開催地の埼玉県支部長高橋一男氏が挨拶をし、閉会の辞を清水副ブロック長

が宣言して議事はすべて終了した。議事終了後は、記念講演として元JAXA防災利用システム室計画マネージャー松原彰士氏による「宇宙開発・利用 惑星探査から宇宙生活、地上防災まで」とJAXAおひざ元

ならではのタイムリーな演目による講演会が開催された。このあと懇親会を開催し、和気あいあいの中でそれぞれの想いを語り、活発な情報交換が飛び交っていた。

(3) 退会者について加藤三久ブロック長より報告がなされた。(4) 理事会・部会・委員会報告がなされた。大崎和生理事より理事会の報告、橋本幸夫氏より供給可能調査委員会の報告、黒田晴彦氏より樹木調査委員会の報告、小畑勝裕氏より庭園樹部会の報告、清水洋樹氏より日本列島植

物園の報告、辻和善氏より青年部会の報告、前野眞澄氏より新樹種部会の報告、竹中昭雄氏よりコンテナ部会の報告がなされた。村松晴彦副ブロック長閉会の辞で無事総会を終了した。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

株 株式会社東海化成  
岐阜県美濃市曾代 66  
TEL:0575-33-4112 FAX:0575-35-1998

## 平成27年度関東・甲信越ブロック通常総会報告

井坂 友紀

(南井坂農園・茨城県)

関東・甲信越ブロックの通常総会が10月28日(水)茨城県つくば市「ホテルグランド東雲」で開催され、総会終了後15時より行われた記念講演にはブロック会員中心に86名が参加し、盛会な研修会となりました。

講師に、JAXA防災利用システム室特任担当である松原彰士氏をお招きし、「宇宙開発・利用」惑星探査から宇宙生活、地上防災まで」の演題で、講演頂きました。



研修会会場

用などに携わってこれまでも、宇宙開発におけるロケットや小惑星探査機、人工衛星の役割について、また、それらから得られた観測情報の防災利用、災害対応について分かりやすく興味深いお話がありました。ペットボトルを用いた無重力の実験や宇宙飛行士のお話もあり、我々の宇宙への関心と想像を大きく広げて頂きました。

地球の環境や気候、また防災という分野は我々緑化業界とも深く関わりのあるものという事で共感する会員も多かったのではないのでしょうか。

質疑では「宇宙空間では植物はどのようにに発芽する

のか」など植物についての質問もあり予定時間ギリギリまでお話をしていた頂きました。

講演レシメ最終ページ「宇宙飛行士になるには?」の問いに、「語学と同じく、今日できることを積み重ねていけば、明日はきっと今日よりもよくなる(古川宇宙飛行士)」「スポーツをして、手をよく洗い、健康な体をつくる」「友だちと仲良くし、友だちを助ける」とありました。

総会は、村松晴彦副ブロック長(静岡県)が開会の宣言をし、加藤三久ブロック長(三重県)の挨拶に続いて、阪上副会長の祝辞挨拶を賜った。司会者が議長に若松園/高村八郎氏を指名し、議長はまず定足数の確認を行い出席者39名、委任状30名で過半数の定足数を確認した。続いて、議事録作成者に赤塚花木園/赤塚正基氏、議事録署名名人に(株)正樹園/田中晃正氏を指名し議事に入った。

◆議事内容◆ 第1号議案 平成27年度決算報告及び監査報告 平成27年度決算報告を加藤三久ブロック長より報告がなされた。

(2) 平成28年度事業計画及び収支予算報告を加藤三久ブロック長より報告がなされた。

第2号議案 役員改選 次期役員について加藤三久ブロック長より平成28年度役員(案)が提示され、審議の結果賛成多数で承認された。

ブロック長に、丸久植物園(南)加藤三久氏、副ブロック長に(株)三栄植木園/三治勝裕氏、同じく(南)濱名園/村松晴彦氏が選ばれた。

◆報告事項◆ (1) 平成27年度の事業報告を加藤三久ブロック長より報告がなされた。

(2) 平成28年度事業計画及び収支予算報告を加藤三久ブロック長より報告がなされた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び交っていた。

◆懇談会◆ 総会のあと懇談会を開催し、和気あいあいの中で活発な情報交換が飛び



### 平成27年度中部ブロック 研修会を終えて

—8月31日名古屋にて—

中部ブロック長 加藤 三久  
(丸久植物園・三重県)

今年度の中部ブロック研

修会は、公益財団法人日本野鳥の会会長柳生博氏を講師にお招きしての講演会を、8月31日(月)に名古屋の「ウインクあいち」で行いました。

日本野鳥の会は全国に数万人の会員を持つ日本最大の自然保護団体で、会の知名度は大変高いものがあります。演題は「植木業界と日本野鳥の会が協同で提案



「日本野鳥の会」会長の柳生博氏講演には約100名が参加

この研修会には中部ブロックの協会のほか、家族やスタッフ等、約100名の参加がありました。講演会は午後3時から、村瀬副会長の司会によりスタートしました。中部ブロック長の挨拶、協会本部からお越しいただいた坂上副会長の挨拶の後、森田プロック幹事が講師の紹介を行いました。いよいよ講師の柳生博

氏の講演が始まりました。「日本野鳥の会会長の柳生博です。この中で野鳥の会に入っている人?」ほとんどいません。「野鳥の会に入ってください!」ここから始まりました。大変柔らかく

ユーモアがあり、それでいて堂々とお話をされるためか、会場内は講師の声と時折出る参加者の笑い声だけ。皆さん講師の話にすっかり夢中でした。お話しはご自身の子供の頃の体験や供の頃の体験や俳優として活躍されていた時代のこと、八ヶ岳倶楽部の森の事、野良仕事の事、今年5月に亡くなられた長男との森づくりのお話等。「言いたい事がいっぱいあるんだよ!」と、こ

やかに言われます。約1時間半のとても楽しい講演会でした。特に印象に残った言葉は「確かな未来は懐かしい風景にある」。



柳生講師を囲んだ懇親会はさらに有意義な時間

### 関西ブロック 通常総会を開催

—11月17日京都にて—

関西ブロック(ブロック)を開催し、本部より阪上副会長(駒井正治氏)は、京都府京都市「ホテルグランビ

ア京都」において11月17日午後2時より出席者21名、委任状出席者12名参加のもと28年度ブロック通常総会

し、駒井ブロック長の挨拶、阪上副会長の挨拶と続き議事に入った。

議事では、議長に駒井正治氏、駒井万葉園、議事録作成人に木村靖氏/木村農園、議事録署名人に西田三徳氏/西田庭園資材、勝山和彦氏/有勝山園を指



一般社団法人日本植木協会 平成28年度関西ブロック通常総会

名して議事を進めた。議案は第1号議案の「平成27年度事業報告」を阪中晃氏/阪中緑化樹生産センターが報告し、審議の結果これを承認した。第2号議案の「平成27年度決算報告」を溝口勝夫氏/溝口勝夫氏が報告し、監査報告を中島宏明氏/中島農園(株)が報告し、審議の結果賛成多数で承認した。続いて第3号議案の「役員改選」を議長が提議し、新ブロック長に辰巳広之氏(株)辰巳植木園初めとする新役員案を報告して賛成多数で承認された。

第4号議案の「平成28年度事業計画案」について辰巳新ブロック長が報告し、続いて第5号議案の「平成28年度収支予算案」を溝口勝夫氏が報告し審議の結果夫々これを承認した。この後、本部から本部報

告に続き委員会報告と部会報告をしたのち、ブロックから青年部会への助成金を授与し通常総会を閉会した。総会閉会後、甲南大学理工学部教授田中修氏による「人間の健康を守る。植物の力」の演目により、「植物の命」は取るに足らない小さなものであるが、私たちと同じ生き物であり、同じ仕組みや同じ悩みを持つ

て、悩みを解決する為に日々頑張っていると説明し、同じ悩みとして太陽は優しくなく、このために発生する活性酸素や抗酸化物質等に触れて健康にいかん植物が役立っているかを説いた90分であった。この後、隣接する会場で、懇親会を開催し互いの情報交換を交した120分であった。

内庁庭園課・元日本植木協会職員である平栗徳雄氏案内のもと、皇居大手門集合後、9時開園と同時に視察を開始しました。三の丸尚蔵館を右手に見ながら江戸幕府時代の百人同心番所前をとり、江戸葛蒲を中心とした800品種以上が植栽されている葛蒲園を見学しました。その後、各都道府県の木の植栽、木漏れ日が差し込む二の丸雑木林、本丸休憩所での休息をほさみ、本丸大芝広場、大奥跡をぬけ、天守台で記念撮影を行いました。30種以上の桜、バラ園、野草、茶畑、果樹古品種園を見学し、大番所前を通り約2時間の行程を終えました。昭和天皇及び今上天皇の植物学者として皇居内の植物等を熟知されている平栗氏の説明はなるほど納得するばかりで、大変興味深い内容でした。

視察終了後は平栗氏を囲み昼食をとりました。昼食後は、神宮外苑、国立競技場を見学しました。国立競技場の現状を視察し、改めて、木々を多く取り入れた競技場であったほしいと感じました。中央研修会の質疑応答でも上がった意見ですが、植木を扱う団体として機会あることに木々(植木)の必要性を訴え続け、日本の緑の景観を守っていかなくてはならないな、と感じるばかりでした。

今回の成果としては、九州ブロック有志の方々と合同で懇親会と視察ができたことが挙げ

### 関西ブロック研修会を開催

—7月23日、皇居東御苑庭園など九州ブロック有志とともに視察—

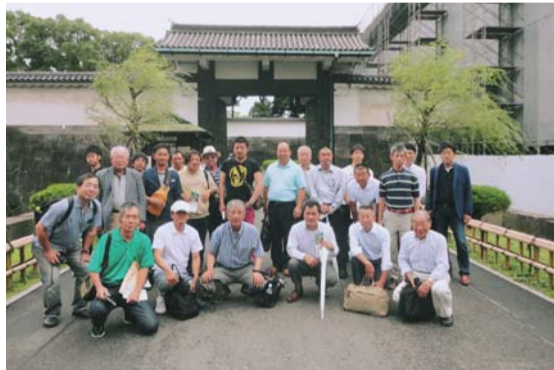
関西ブロック副ブロック長 阪中 晃  
(阪中緑化樹生産センター・和歌山県)

平成27年度関西ブロック研修会は、協会主催中央研修会翌日の7月23日(木)に開催しました。阪上副会長、駒井関西ブロック長をはじめとする関西ブロック

員に、九州ブロックより

牛嶋理事をはじめとする有志の方々にもご参加いただき総勢24名にて、前日の合

同懇親会とその翌日の皇居東御苑庭園および国立競技場周辺視察を行いました。皇居



皇居東御苑庭園は、元宮

**使い易く即日発送!!サカナカの緑化資材**  
**根巻三角・四角・ロール自社製造、オーダー対応!!**

- ◆定番の麻なわ、麻かたなわ、根巻ロール、幹巻ロール
- ◇ハイコントロール、ウッドエース、グリーンパイル等各種肥料
- ◆活着率バツグンの空中ポットレストレー
- ◇大量使用に安価な「エコノミーポット」
- ◆夏の草取りを軽減するポット用防草マット
- ◇生育時の灌水量節減、霜・雹・寒波からの傷み防止、台風等から潮(塩)害防止にグリーンナーをどうぞ

**SRS (株)阪中緑化資材**  
 649-6124和歌山県紀の川市桃山町市場269-1  
 HP <http://www.sakanaka.co.jp> E-mail : [srs@sakanaka.co.jp](mailto:srs@sakanaka.co.jp)

**TEL0736-66-2201**  
**FAX0736-66-2172**

地球に優しく、植物にも優しい  
 生分解性 biopot

**green support**

有限会社 グリーンサポート  
 大阪府貝塚市三ツ松 688-3  
 TEL 072-447-0112 • FAX 072-447-0133  
 HP: <http://www.green-support.com>



# 中国・四国ブロック

## 通常総会、及び研修会を開催

11月17日鳥取市にて

中国・四国ブロックは、平成27年11月17日(火)「鳥取シティホテル」において、ブロック総会を開催した。水城清志会長始め加藤一巳ブロック長を含む24名が参加した。鳥取県支部長倉見昌成氏司会進行のもと、加藤一巳ブロック長開会挨拶に続き、来賓の水城清志会長より祝辞を賜った。その後、議事に入るにあたり、森本泰好副ブロック長が議長として選任された。議長が議事録署名人に(株)大西屋・西坂哲紀氏、(株)瀬戸内園芸センター・丹下貴啓氏を指名し、議事進行した。

### 第3号議案・第4号議案

加藤ブロック長より28年度事業計画(案)と28年度予算(案)が報告され、承認された。その中で平成29年度(一社)日本植木協会全国総会の担当ブロックであることに触れ、前回は中国地方の広島県で開催したことから、輪番として四国地方での開催を要望することが確認された。

### 第5号議案

加藤ブロック長よりブロック長、会計、会計監査、およびブロック推薦委員である地域性植物適用委員・國忠征美氏、緑育出前授業実行委員・加藤一巳氏の統投の提案があり、承認された。支部長については総会当日に結論を得られないことから、各支部に一任し、11月中旬に最終役員とするので承認された。

### 第1号議案

内山淳副ブロック長から27年度事業報告がなされ、全員の賛成を得て、承認された。

### 第2号議案

会計の竹本祐子氏より27年の決算報告がなされ、監査人の監査で正しく会計処理されていると報告した。

### 地域性植物適用委員会

報告が國忠委員長より、主に9月15日開催の講演会内容について説明された。緑育出前授業実行委員会報告が加藤委員長より、平成27年度実施実績および教材として利用できるコンテンツ完成について説明があった。その他本部からの報告は事務

### 同が行った。

会場より、植木協会本部を大阪から東京へ移転した大目的である、中央官庁への意見陳情活動、関連団体等との連携を積極的に行ってほしいとの要望があった。水城会長は、今年度の陳情活動具体例などを挙げ、そのほか東日本大震災

### 被災地復興関連として、東

北ブロックと協会本部協働による苗木提供、2020年東京オリパラに向けた協会としての材料提案などについて、次年度事業として予算化されていることに触れ、積極的に働きかけると回答した。

### 被

なるが、使用を推奨しない樹種が選定されている。また国内に定着していないが定着した場合に生態系への被害の恐れがあり導入を予防したい。定着予防外来種の例として、ヨーロッパハンノキ、フランスゴムフキ、ノルウェーカエデ、アメリカハナノキ、ギョリュウ(タマリスク属雑種)、シマトバテラなどを紹介した。さらに、国内にすでに定着しており、防除や遺棄・導入・逸出防止等

### 「自生植物を使った緑化」

講師：鳥取大学農学部 生態工学研究室 教授 日置 佳之氏

### 自生植物を使った緑化、

いわゆる「生物多様性緑化」とは、自生種の地域性種苗を用い、その土地本来の生態系・景観の形成を図る緑化であると説明し、推進されている理由として、生物多様性の保全に加え、それぞれの地域らしい景観を保全・形成し、郷愁や観光の対象とする流れも大きいと述べた。

### これまでの緑化の問題点

として外来種問題を挙げた。一旦植えてしまうとコントロールすることが難しい侵略的外来種について、2005年制定の外来生物法では重い罰則が科せられる生物が指定されたが、植物では12種のみが指定され木本は指定されていない。それを受け、2015年に環境省から公表された「生態系被害防止外来種リスト」では、法に基づき規制対象とは

### このための普及開発などの総

合的な対策が必要。総合対策外来種のうち防除手法などが確立されていない「重点対策外来種」の例として、ウチワサボテン属、ナガバアカシア、モリシマアカシア、イタチハギ、ニワウルシ、ランタナ(ヒチヘンゲ)、ブッドレア(フサフツウツギ)、ヒイラギナテン、ピラカンサ類、を紹介した。

### 加えて、鳥取県の生垣・

公園・庭園における外来種と在来種の割合に関する調査結果から、既存緑地で外来種が多用されている現状を説明し、その要因として、

### これまで緑を増やすことに

注力し、その内容や質についての認識が不足していたこと、市場流通性の高い緑化樹木の多用を挙げた。外来生物法制定の2005年以降増加してきた生物多様性緑化の実例を紹介し、地方林間部の工場緑化のみならず、都市部の大規模緑化事業、特に民間事業で自生種主体の緑化が増えている傾向を紹介した。

最後に、研究室での取り組みとして、設計・施工者が生物多様性緑化を実施する際、植栽地に適した植物を選定できるデータベースを鳥取県を事例として作成中であることを紹介し、講演を終了した。

### 最後に、研究室での取

組みとして、設計・施工者が生物多様性緑化を実施する際、植栽地に適した植物を選定できるデータベースを鳥取県を事例として作成中であることを紹介し、講演を終了した。

### 講演終了後、別会場で

懇話会を開催し、和気あたたかさが感じられた。木陰とミニストを組み合わせたプランターベンチに組み込む養生中の樹木、候補樹木のテスト圃場芝生の品種別展示(テスト圃場)など、テスト植栽での生育状況も見られるので勉強になりました。翌日前には、皇居、丸の内プリックスエア、東京国際フオーラムを視察しました。

### とが実証されたと思いま

だきました。木陰とミニストを組み合わせたプランターベンチに組み込む養生中の樹木、候補樹木のテスト圃場芝生の品種別展示(テスト圃場)など、テスト植栽での生育状況も見られるので勉強になりました。翌日前には、皇居、丸の内プリックスエア、東京国際フオーラムを視察しました。

### 思いつきはするが、誰も

実行しない。やった人がリスクを払った人、利益を得る。単純な事ですが、改めて教えていただいたと思います。

### 東京都農林水産振興財団

さまでは、ご担当者不在のため、須崎さまご案内のもと、園内を見学させていただきました。

### は、国内トピアリーのパイ

オニアでもあり、自身が手がけてこられたノウハウの一部を教えてくださいました。

### は、なかなか実行する人は

居ないのではと思いましたが、こうやって実行して形になると管理も簡単で、普及しやすいことだとい

### いあいの中で活発な情報が

飛び交っていた。

### ◇総会翌日研修会◇

翌11月18日(水)8時30分にホテル出発し、参加者14名が車に分乗し、倉見苗圃、竹本園の視察を行った。

### 中国・四国ブロック研修会を開催

7月21日、東京都農林水産振興財団ほか立川周辺圃場を視察し、中国・四国ブロック長 加藤 一巳(有辰巳園・鳥取県)

### 本協会中央研修会の前日

である7月21日(火)午後、中国・四国ブロック研修会を開催しました。

### 有限会社須崎園さまで

は、東京都農林水産振興財団が行っているオリオンピックでの木陰とミニストを組み合わせたプランターベンチに組み込む樹木を視察しました。また試験段階のため、木陰を作り出すほど茂ってはいませんが、木陰の可能性をアピールするものとして、また、移動式である観点から、全国的にも使える場面は多々考えられると思われました。今後、これらを東京オリンピック

### このための普及開発などの総

合的な対策が必要。総合対策外来種のうち防除手法などが確立されていない「重点対策外来種」の例として、ウチワサボテン属、ナガバアカシア、モリシマアカシア、イタチハギ、ニワウルシ、ランタナ(ヒチヘンゲ)、ブッドレア(フサフツウツギ)、ヒイラギナテン、ピラカンサ類、を紹介した。

### 加えて、鳥取県の生垣・

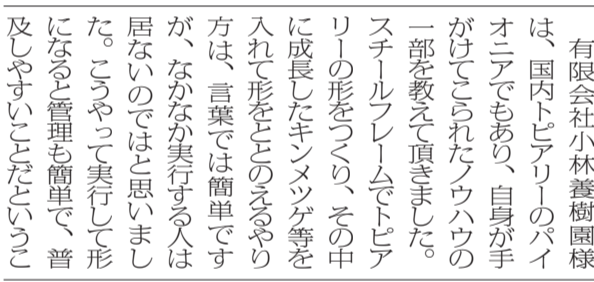
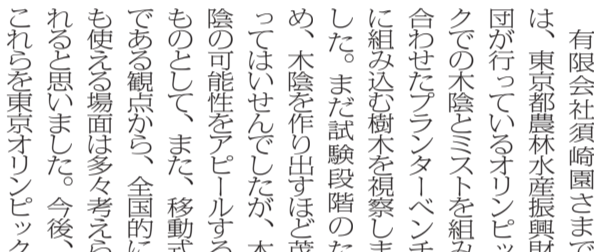
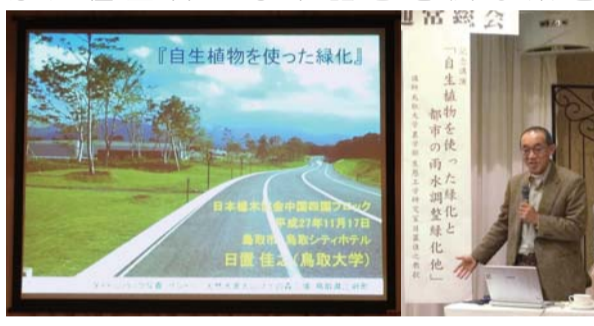
公園・庭園における外来種と在来種の割合に関する調査結果から、既存緑地で外来種が多用されている現状を説明し、その要因として、

### これまで緑を増やすことに

注力し、その内容や質についての認識が不足していたこと、市場流通性の高い緑化樹木の多用を挙げた。外来生物法制定の2005年以降増加してきた生物多様性緑化の実例を紹介し、地方林間部の工場緑化のみならず、都市部の大規模緑化事業、特に民間事業で自生種主体の緑化が増えている傾向を紹介した。

### 最後に、研究室での取

組みとして、設計・施工者が生物多様性緑化を実施する際、植栽地に適した植物を選定できるデータベースを鳥取県を事例として作成中であることを紹介し、講演を終了した。



左) 須崎園のトピアリー  
右) 東京都農林水産振興財団  
上) 可動式樹木ベンチ用の樹木養生中  
下) 候補樹木テスト圃場

Advertisement for HAKK (早瀬工業株式会社) featuring various agricultural products like mulch, ropes, and pesticides. The text emphasizes 'Natural and Superior' (自然とともに 優しさとともに).

Advertisement for Taishin Sangyo Co., Ltd. (大信産業株式会社) featuring agricultural products like pesticides (ダイリグ、スナップショット) and mulch (ニュー名板ラベール).



### 平成27年度 特別庭園樹木(名木)を認定

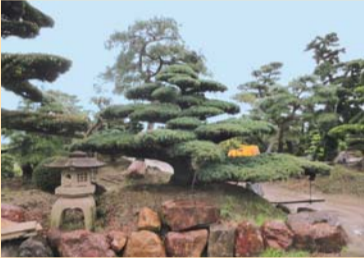
名木認定制度は、最高の技術と長い年月によって育成され芸術的風格を備えた庭園樹木(造形仕立て物及び自然型仕立物)を「名木」と認定し、その価値を称賛するとともに、生産技術の継承、生産意欲の新興を図り、ひいては需要の喚起により業界発展に寄与することを目的としています。

名木の対象樹種は、本会会員の所有する中・高木で、販売の意思があり、運搬可能であるものです。

平成27年度は、中部ブロックを対象に募集を行ったところ5本の応募があり、一次書類審査をすべてが通過し、9月17~18日の2日間で現地へ赴き2次審査を行い、申請樹木のうち「品位、風格を有し、社会的希少価値が極めて高いもの」として4本が認定されました。

#### ゴヨウマツ

樹高 2.5m  
幹周 1.5m(芝付き)  
枝張 4.5m  
樹形 仕立て  
推定樹齢 150年  
認定番号 152202



愛知農園植木苗木(株) 氏永 孝夫 氏  
愛知県 稲沢市

#### クロマツ

樹高 2.7m  
幹周 1.15m(芝付き)  
枝張 6.7m  
樹形 仕立て  
推定樹齢 100年  
認定番号 152101



(有)伸松園 小畑 勝裕 氏  
静岡県 浜松市

#### イヌマキ

樹高 5.0m  
幹周 1.78m(芝付き)  
枝張 6.5m  
樹形 仕立て  
推定樹齢 300年  
認定番号 152204



(有)橋本植木 橋本 良治 氏  
愛知県 稲沢市

#### クロマツ

樹高 5.0m  
幹周 1.83m(芝付き)  
枝張 5.5m  
樹形 仕立て  
推定樹齢 200年  
認定番号 152203



善壽園 近藤 幹男 氏  
愛知県 稲沢市

中部ブロック会員の方々、ご協力ありがとうございました。次年度募集地域は中国・四国ブロックです。中国・四国ブロックの皆様、より多くのご応募をお願い申し上げます。

### 〈就任の挨拶〉

さとう けんいち  
佐藤 建一 事務局長  
昭和25年9月11日生



経歴  
昭和44年4月 林野庁林業試験場入庁  
昭和57年5月 農林水産技術会議出向  
昭和63年4月 林野庁(研究普及課)復帰  
平成23年3月 林野庁(森林計画官)退職  
平成23年7月 財団法人日本緑化センター入社  
平成27年12月 一般財団法人日本緑化センター退社  
平成28年1月 一般社団法人日本植木協会入社

この度事務局長を拝命いたしました佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。木曾檜の里の生まれで、幼少期は山を遊び場として育ちました。

林野庁では、その大半をこの生産振興・需要拡大に携わっていたことから、緑化に関してはまったくの素人同然であり、日本緑化センターにおいて緑化の大切さの一端を理解した状況です。今後は、皆様から教養を請いながら緑化推進についての研鑽を深め日本植木協会の更なる発展に努めて参りたいと考えています。ご迷惑をかけることも多々あるとは思いますがご指導のほどよろしくお願いいたします。

### 会員動向

#### 正会員・入会

▷(有)小川グリーンメイク (栃木県) 小川秀幸

#### コンテナ部会退会

▷(有)ヒノマルナーセリー (兵庫県)

#### メールアドレス変更

▷(有)清幸園(東京都)

(新) seikouen@dune.ocn.ne.jp  
(旧) info@seikoen.net

#### 訃報

吉岡鉄雄様(福岡県)

吉岡廣楽園

(吉岡達幸氏父)

平成27年12月17日没

享年91歳



77名の参加者でいっぱいになった教室

野外のオプションも考え、輝きが日頃と違い、メモを取りながら説明を聞いたり、また不明な点はその場で質問し、すぐ納得することが出来ました。みっちり1時間、3教室を回る受講形式をとり延べ3時間大変勉強になりました。説明を受講しました。

川原田委員長・吉澤副委員長・山崎委員3名の講師の方々、遠路はるばる九州まで足を運んで頂き、大変ありがとうございました。



会員同志の意見交換会

## 九州ブロック

### 通常総会を開催

11月13日 熊本県熊本市にて

九州ブロック(ブロック長/二村沢行氏)は、熊本県熊本市「ホテル日航熊本」において11月13日午後2時より出席者51名、委任状出席者23名のもとブロック通常総会を開催し、本部長より水城会長と専務理事が出席した。

総会は、大森副ブロック長(熊本県)が開会宣言をしたのち、(有)阿蘇樹木センター/今村和博氏(熊本県)の司会のもと進行し、二村ブロック長(大分県)の挨拶、水城会長の挨拶、本

会の来賓紹介として水城会長と専務理事の紹介後議事に入った。この後、議長・議事録署名人は執行部一任により、議長に(有)東グリーン/東 亮太氏、議事録作成人に熊本県(株)清光園芸熊本支店/大村数也氏と、(有)熊本緑化センター/遠山 彰氏、議事録署名人に鹿兒島県支部 西郷農園/西郷純一氏、大分県支部(有)酒見緑化園/酒見博文氏を指名して議事



二村ブロック長あいさつ

を進行した。議案は第一号議案の「平成26年度事業報告」と第二号議案の「平成26年度決算報告、監査報告」を一括上程し、審議の結果賛成多数で承認した。続いて第三号議案の「平成27年度事業計画案」と、第四号議案の「平成27年度収支予算案」について一括上程し、審議の結果これを了承した。続いて第五号議案の「役員改選」について、役員数21名を15名に減員すること、相談役を3名から1名に減員する事、新役員の氏名公表の後審議に移り、原案通り了承された。九州ブロック長に熊本県(有)豊岡晃樹園/豊岡敏則氏が就任する事となった。

ここで、審議が終了して議長が退席し、執行部から入退会報告、地元理事、委員会委員等による委員会報告、青年部報告、本部報告が報告された。本部報告は終了し、会員から生産数量調査のデータ公開について、提出したデータが公開されないことについて質問が有り、現状では一部地域の理解が得られていない

事(今後は需給の変化、震災復興需要、理事会での討議等のほか、オリンピック関連情報の情報受発信、公開する場合は仕組み作り案等)が報告され、理解を求めた。その後、一般財団法人公団財団理事長/豊茂壽太郎氏が演目として「植木の範囲くウエキからアザバエ」について、HCWの規格で統一される公共用緑花木の他に、アザバエとは個性的な樹木、もっと言えば規格外品の設計を念頭に、(有)アザバエ造り植木から風景を調べる樹木に注目してアザバエの積極的な活用を促し、植木の需要を掘り起す必要性を説かれ、ランドスケープイニシアティブを力説された。

## 九州ブロック・夏季研修会報告

### 九州ブロック長 二村 沢行

(大分植木・大分県)

九州ブロックの夏季研修会は、協会本部主催の「環境緑化樹木識別検定」を九州で初めて実施するに当たり、「樹木識別ポイント講習会」が、事前に間違いや

すい樹木の枝葉を集めての講習会を実施するならば、折角の機会に九州ブロックの本協会員や青年部はもちろぬ一般生産者や、日頃お世話になっている造園屋やコンサルの人にも声掛けし、幅広く樹木の勉強をして貰う様に計画し、講習会終了後に久留米において協会同志の情報交換の場を作る事を目的に計画



講師が説明する見分け方のポイントやその樹木に関する話を熱心にメモに取る受講者

参加者の意見としては、皆さん声を揃えて言っていたのは、「大変勉強になった」もったほかの樹木も勉強したい」など。会員外からは「一緒に樹形なども教えて貰えると助かる」や、「一般に使用されている樹木を中心としたワークショップ」などの意見も聞きました。参加した人が「こんな機会を作ってもらえたら、また参加したい」との意見がほとんどでした。

講習会終了後は、バス2台で久留米市内のホテルニュープラザ久留米に移動し、九州ブロックの会員同志の意見交換会を18時より開催しました。二村ブロック長のあいさつ、続いて水城協会の理事に乾杯の音頭を取って貰い、会員同志の意見交換会及び懇親会はスタートしました。各地から集まった会員40名が意見や情報の交換をすることが出来、大変有意義な会となりました。夜遅くまで語り、その後、街に繰り出していきました。